



学校だより

2020.2.28 No.131

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3

明石高専

<https://www.akashi.ac.jp>



野球部がフィリピン遠征
(9月18日～27日)



第72回全日本バレーボール高等学校選手権
大会兵庫県予選 ベスト8
(11月2日～10日)



寮生球技大会
(11月18日～20日 本校体育館にて)



全国高専ロボットコンテスト
(11月24日 両国国技館にて)

～ 目 次 ～

校長講話.....	2	3年合宿研修報告.....	8
学生行事.....	3	5年見学旅行報告.....	9
卒業・専攻科修了にあたって.....	4	高専女子フォーラム報告.....	10
退職される教員より.....	6	各種大会コンテスト報告.....	11
教員表彰報告.....	6	国際交流活動報告.....	13
高専体育大会報告.....	7	図書館より.....	14
進路指導委員会より.....	7	校内短信・行事予定・学生表彰.....	16

校長講話

水素社会を実現する21世紀の播磨灘物語

校長 笠井 秀明（かさい ひであき）

液体水素運搬船の進水式が12月11日、川崎重工業（株）神戸工場で行われました。水素は-253℃で液体になり、体積が800分の1になります。オーストラリアのヴィクトリア州に埋蔵する褐炭から水素を取り出し、液化し、液体水素を運搬船に積んで、日本へ輸送する計画だそうです。水素サプライチェーンの一つであり、この完成により、水素社会の実現が期待されます。東京オリンピック、パラリンピック開催時に、デモンストレーションが行われるとの事。楽しみです。

液体水素を入れる“魔法瓶”は播磨工場で作られています。液体状態を安定的に持続するには、水素の核スピンを制御する必要があります。これに関する研究開発を共同で進めた経緯から、その当時の研究メンバーである川崎重工業の山下さん矢嶋さんに案内をお願いし、進水式に参加することができました。SUISO Frontier（すいそ ふろんていあ）が船名です。感激しました。

水素と固体表面との相互作用、水素の表面近傍での挙動に関する著書を執筆中です。その中で液体水素運搬船のことも少し触れる予定にしています。以下に前書きの一部を記載します。



John Bockris, in his 1970 talk at the General Motors (GM) Technical Center, coined the term “hydrogen economy” to describe a hypothetical future system of delivering energy through the use of hydrogen. That future is now. After about 50 years, the fulfillment of Bockris’ vision of a hydrogen-powered future is gradually taking shape in our time. In many countries around the world, active efforts to decarbonize energy systems have turned hydrogen into the centerpiece of grand master plans for clean and sustainable replacement to fossil fuels.

While the decarbonization of energy landscape has propelled the contemporary research interest in the conversion, storage, and delivery of hydrogen, its interaction with surfaces has laid the foundation of cornerstone concepts in surface science. Because of its simple electronic structure, studies on hydrogen-metal systems have allowed the derivation of the fundamental principles of surface reactivity and mechanism of bond-forming and bond-breaking processes, which are of great technological and scientific importance. Furthermore, the quantum effects in surface dynamics due to the light mass of hydrogen have made it a profoundly interesting benchmark system from a fundamental point-of-view.

Albeit the study of hydrogen has been a long tradition in surface science, significant advancements in theoretical and computational methods over the past years, in addition to the recent development of high-performance supercomputers, have paved the way to more sophisticated treatment and understanding of hydrogen-surface interactions. In particular, density functional theory-based first principles calculations have matured enough to address the long-standing problem of surface reactivity, such as the solutions to the failure of widely used functionals to predict the experimentally observed structures and stabilities of molecules on surfaces. Also, recent studies on hydrogen and hydrogen-containing molecules have taken major leaps in the understanding of adsorbate-induced segregation in bimetallic catalysts, novel hydrogen storage materials, and other contemporary topics of interest in the general surface science community. Among other things, these recent research accomplishments and the earlier mentioned key role of hydrogen in addressing our energy need, have inspired the concept of this book, which was meticulously written to elucidate both the fundamental concepts of hydrogen-surface interactions and its role in hydrogen economy.

CO₂を排出しない新たなエネルギーとして注目されている水素。経済産業省・資源エネルギー庁のホームページにも、省エネルギー・新エネルギーとして、大きく取り上げられています。水素社会の実現は目前です。それでは皆様ごきげんよう。

学生行事

冬のスポーツ大会

学生会体育局長 建築学科 3年 田村 瑞樹（たむら みずき）

今年のスポーツ大会は例年とは違い12月の後期中間試験の後に行われました。なので私は「学生に思いっきり楽しんでもらうこと」のほかに「冬のスポーツ大会運営の基盤をつくること」という目標を掲げて運営をしました。

当日はもちろん寒かったですが、天気が良くすべての競技を行うことができました。物品の破損や審判のトラブルなどの私が1、2年生のころに体験しなかったような想定外のことが起きてハラハラすることがありましたが、頼りになる先輩や積極的に行動をしてくれる後輩がいてくれたので、大きなトラブルは発生せず終えることができました。まだアンケートの結果は見えていませんが、個人的に学生から「運営お疲れ様でした。」「楽しかったです。」などの声をたくさんいただけたので本当に嬉しかったです。来年は局長としてスポーツ大会を運営することはないと思いますが、後輩のお手伝いをしながら今年のアンケートの結果をもとにより多くの学生が楽しめるような行事に少しでも変えていけたらと思います。

その一方で、正直、初めてスポーツ大会を運営する自分に先輩方のようにしっかりと最後まで運営を成功させることができるのか、次の代につないでいけるような運営ができるのか不安に思うこともありました。ですが、前日から積極的に準備を行い、当日も素早い準備や行動をしてくれる後輩たちの成長を見ているうちに、今年の運営はもちろん、来年からの運営についての不安もなくなりました。一年間体育局長を務め、スポーツ大会に携わったことは私にとってとても大きな経験になりました。大変なこともたくさんありましたが楽しかったです。

最後に、スポーツ大会を開催するにあたってお世話になった先生方と学生課の職員の方、円滑な進行にご協力いただいた学生の皆様、私を最後まで支えてくれた学生会執行部の皆様に心から感謝申し上げます。来年のスポーツ大会もご協力よろしくお願いします。

非日常の2日

高専祭実行委員長 建築学科 4年 中倉 梨沙（なかくら りさ）

活気の良い、元気のある日々でした。その2日間にするために「彩（いろどり）」というテーマのもと高専祭実行委員会の委員長として活動しました。来場していただく全員に各々の楽しみ方をして欲しい。そして、高専祭という舞台を来場者の楽しみ方でさまざまな色に染めて欲しい。そのような想いを「彩」という多くの色が存在する様子を意味する言葉で表現しました。当日は両日ともに太陽の光が眩しいと感じるほどの晴天になり、天気には本当に恵まれました。バザー団体の集客の声飛び交い、行列のできていたお店もありました。また、ステージイベントで私がステージ上に立って、周囲を見てもたくさんの人たちがいて、高専祭が盛り上がり成功したと実感しました。今年度のテーマのように来場した人や高専生の楽しそうな声や表情を見ることができて嬉しく思いました。

はじめて実行委員長という立場になったので、最初は実行委員会の数十人をまとめて進行できるのか不安もありました。ですが、同級生が相談相手になってくれ、3年生や2年生、1年生たちが協力してくれたおかげで11月を無事迎えることができました。およそ1年前から徐々に案を練っていき、学年の枠を超えて議論をしてきました。また準備期間では全体的に今まで以上に順調に進んでいき、以前とは違った高専祭前のスケジュールの大幅変更に対応できたと思います。そのため当日も大きなトラブルが起きず安心しました。高専祭はこれからも続いていきます。そのために、次世代の実行委員会が活動を始めています。保護者の方々のご協力も必要になってくると思いますので、高専祭を今後ともよろしくお願いします。



卒業にあたって

高専生活を振り返って

機械工学科 5年 蓬菜 湊（ほうらい けい）

明石高専で過ごした期間を振り返ると本当にあっという間に終わってしまった5年間でした。数学や物理の知識、実験・実習で得た経験などはもちろんのこと、Co+workの3年間から得たコミュニケーション能力や、アクティブラーニング授業で得たグループワークの経験などは将来の数年後、数十年後にも必ず生きてくるものだと考えています。特にCo+workの活動で保育園児と先生方と交流する機会を得た「年齢性別関係なく人と接する力」はこれから社会人となるうえで大切な能力であり、この活動をした1年間は私の大切な資産となりました。

最後になりましたが、5年間明石高専に通わせてくれた両親、授業はもちろん授業以外でもご支援いただいた教員や職員の方々、楽しい学生生活をともに過ごした部活の仲間やクラスメイトに感謝しています。ありがとうございました。



高専での5年間

電気情報工学科 5年 竹谷 夏葵（たけたに なつき）

私の高専での5年間はとても充実していました。授業の予習復習や課題はもちろん、資格勉強、課外活動など、興味を持ったことにがむしゃらに取り組むことができる環境は、私にとって有意義なものでした。この他にも、就職活動や卒業研究などを通して、学内外問わず多くの方からご指導いただき、多種多様な知識と社会経験を得ることができました。

また、電気情報工学科のクラスで5年間で過ごしたことも得難い経験でした。スポーツ大会や見学旅行などの学校行事では大いに盛り上がり、普段の学校生活でも笑いの絶えないクラスで過ごした日々は、色褪せることなく心に残り続けると思います。

最後に、部活動の顧問の先生方、課外活動を温かく見守ってくださった地域の方々、資格勉強や卒業研究においてご指導してくださった学科の先生方、様々な形で支えてくれた部活動、クラス、寮生活の友人たちに心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



高専での5年間 都市システム工学科 5年 福富 如将（ふくとみ なおまさ）

僕の周りのクラスメイトや友達は、「高専での5年間でとても短かった」という人が多いです。しかし、僕はとても長く濃い5年間だったと思っています。入学した当初は、分からないことが多すぎて勉強や部活に必死に食らいついていました。勉強は普通高校より進むスピードが速く難しくて、授業時間は90分間と長く、部活も毎日19時過ぎまで練習して、帰ってからは課題や翌日の小テスト勉強に取り組み、週末には他校との練習試合がある。こんな生活リズムに慣れたおかげで、今ではメリハリのある生活が送れるようになったと思います。

また、毎年行われるスポーツ大会や高専祭などの行事ごとや学年ごとの合宿研修や見学旅行など数多くの思い出があります。このような充実した日々を送ることで、僕たちは多くのことを学び、成長することができたと思います。

こんなにも濃い高専での5年間は、僕にとってかけがえのない宝物で、この経験を生かしてこれからの人生をより一層良いものにできるように頑張ります。5年間お世話になりました。ありがとうございました。



卒業にあたって

同期のミンナ

建築学科 5年 前田 恵美（まえだ えみ）

私には夢があります。子供達のために学校を作ることです。私には夢があります。一生信じあえる仲間を作ることです。私には夢があります。その仲間と素晴らしい建物を作り続けることです。昨年やっていたドラマではゼネコンが舞台に物語が展開され、建築業のブラックさをひしひしと感ずることができました。私たちはこれからそれぞれの道を歩いていきますが、きっとそんな困難な道を選ぶ人がいると思います。建築の道を選ばない人もいると思います。職種は関係なく、信頼できる仲間が大事なのだという事をドラマから学びました。出会った仲間を一生大切に、それぞれの進路をそれぞれ頑張っていきたいと思っています。将来みんながどうなっているのか、想像するのがすごく楽しいです。そして最後に5年間で関わった皆様に心からの感謝を伝えたいです。ありがとうございました。みんなに幸あれ！



専攻科修了にあたって

明石高専での7年間

機械・電子システム工学専攻 2年 金澤 弘貴（かなざわ ひろき）

明石高専に入学して7年という月日が経ちました。正直なところ、当初は7年も同じ学校に通うとは思っていませんでした。振り返ってみると、本科+専攻科の7年間は長いようでとても短く充実した日々だったと感じます。本科ではクラスメイトとともに実験レポートや試験、課外活動などを通して技術者としての知識だけでなく、協調性や忍耐力なども身につけることができました。専攻科では他学科出身のひととの交流が増え、グループワークやプレゼンテーションを通して自身の専門分野を分かりやすく話す能力が身につきました。知識を持っているだけでなく、それを他人に説明できることは技術者として必要な能力だと思います。また、自身の専門分野以外のことを学ぶことが多く、物事を考えるときの視野も広がりました。こういった多角的な視野を育むことができるのが専攻科の魅力の1つだと思います。

春からは新たな生活がスタートします。7年間共に学んだ仲間とも別々の道を歩むことになりますが、明石高専で学んだことを活かし前進していきたいと思っています。

最後になりますが、熱心にご指導いただきました先生方、楽しい日々をくれた友人、あらゆる面で支えてくれた家族、学校関係者の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

人生を変えてくれた明石高専

建築・都市システム工学専攻 2年 川原 知也（かわはら ともや）

7年間の明石高専生活で、専門知識やプレゼンテーションのノウハウはもちろんだが、「物事に全力で取り組むことの楽しさ」、「人間関係の重要性」の2点を大きく学んだ。

明石高専に入学し、人生で初めて全力で取り組んだことがある。それは、野球部での活動だ。本科2年の夏に、主将に任命され、朝から晩まで、チームのことや野球のことを考えてきた。中学までは、全てが中途半端だった私が変わることができたのは、明石高専の先生方の支えがあったからだと思う。

恩師である後藤先生をはじめとする野球部の先生方が、日頃から学生の目線に合わせて会話をしてくださったり、時には、厳しく私の闘志に火をつけるような言葉をくださった。その結果、私は心を動かされ、物事に全力で取り組むことの楽しさを学んだ。

都市システム工学科の先生方や他学科の先生方も、忙しいにも関わらず、時間を割いて、様々な相談に乗ってくださった。明石高専で長く過ごすことで、人間関係の重要性を再認識することができた。

来年から社会人になるが、明石高専で学んだことを活かし、いつか、先生方のように、多くの人々に感謝されるような仕事ができるように、物事に全力で取り組み続けたい。

最後に、明石高専を通じてお世話になった先生方に、お礼を申し上げます。また、今後ともよろしくお願い申し上げます。

退職される教員より

“Bildung ist das, was übrig bleibt, wenn alles Gelernte vergessen ist.”

(※しばしば「アインシュタインの名言」として紹介されますが、初出はG.ケルシェンシュタイナーのようです)

本間 哲也 (ほんま てつや)

明石高専で10年過ごすうちに、教員室にいろんなモノが増え、部屋を埋め尽くしました。昨年9月の退職にあたってその部屋を空っぽにした(本当に大変でした)のですが、モノがなくなった教員室を見ていて標題の言葉を思い出しました。私が大学生のときに授業で聞いて、今も強く心に残っている一文です。

明石高専を去るにあたり、この言葉を残して行きたいと思います。日本語だと次のような意味です。

「教養とは、習ったこと全てを忘れたときに残っているもののことである。」

文頭の「Bildung」というドイツ語は「教養」「教育」どちらの意味にも用いられます(英語の「education」も同様ですね)。スペイン語の「educación」だと「礼儀・躾」という意味あいも強くなります。つまり西洋語では「教育～教養～品格」は一つながりのイメージであることが窺えます。「使える知識」「役に立つスキル」だけでは真の education にならないということを、改めて肝に銘じたいものです。

この明石高専で優秀な学生たちの「一般教養教育」に携われたことを誇りに思います。ただ、私の担当した授業や課外活動などは、果してどれだけ「教養」を残せたのでしょうか。学んだことを忘れた頃、(元)学生の皆さんに尋ねてみたいと思っています。まあ、既に(習った端から)忘れているのかもしれませんが…。



退職にあたって

一般科目 仁木 夏実 (にき なつみ)

今年度末をもちまして、11年間にわたる本校での教員生活を終えます。

本当はまだ実感がありません。幼いころから絶えず本を読み、大学に入って以降は本を読み、それについて考え、書くことが当然のこととなっていた私にとって、理系の学生のみなさんと「なぜ国語を勉強しないといけないのか」考えることは、自分を見直す貴重な機会でもありました。その答えは人によってそれぞれ違うでしょうし、一つではないのかもしれませんが、私が本校で得た(つまり、みなさんとの生活の中で教えてもらった)答えの一つは、言葉は思考であり、言葉の力は考える力であるということです。

授業の中でくりかえしお伝えしてきたことですが、本を読むだけでなく、日常生活の中の言葉に敏感になり、さまざまな言葉に触れてください。そして、強靱な考える力を養ってください。その言葉、その力は必ずみなさんの人生を豊かに、しなやかにしてくれるはずです。

11年間、本当にありがとうございました。



教員表彰報告

副校長 江口 忠臣 (えぐち ただおみ)

明石高専教員の教育研究活動における功績および活躍の一端を紹介します。上泰准教授は、高専と豊橋技術科学大学が連携して進めている共同研究のプロジェクトにおけるシンポジウムにて優れた研究内容が表彰されたものです。鍋島康之教授は、関西の地方自治体、大学、民間企業が参加する研究会において当該年度の優秀研究賞の受賞が1件、非破壊検査と評価法に関する国際会議において優秀な成果発表に対する表彰が1件です。皆様とともに受賞を讃え、さらなるご活躍を祈念いたします。

所属	氏名	平成31年及び令和元年に受賞した賞
電気情報工学科	上 泰	平成30年度先進的技術に関するシンポジウム 優秀プレゼンテーション賞
都市システム工学科	鍋島 康之	International Conference on Nondestructive Testing and Evaluation Best Presentation Award
都市システム工学科	鍋島 康之	関西道路研究会 優秀研究賞

高専体育大会報告

令和元年度高等専門学校体育大会の報告

学生主事 森下 智博（もりした ともひろ）

今年度の全国大会は中国地区で開催されました。本校からは、近畿地区大会を勝ち抜いた48名の学生が8競技17種目に参加しましたが、残念ながら優勝・準優勝はありませんでした。本校は敷地面積が狭いために、グラウンドでは野球部・サッカー一部が場所を譲り合って練習しているほか、400mトラックを取ることができませんし、体育館も一つしかありません。他高専と比較すると大きなハンデがありますが、良い成績を残すことだけが部活の意義ではありません。十分でない環境でも、練習の効果を高めるように工夫することは、これからの人生に役立つものと信じています。また、「Let's ACT!!」の校風の下で先輩後輩が協力し合って研鑽していることを嬉しく思っています。

近畿地区大会では、野球と卓球の2競技が本校主管で開催されました。天候に恵まれ、かえって熱中症を心配していましたが、大きな事故がなく、無事に大会を終えることができました。また、多くの部員に大会運営にご協力いただきました。ありがとうございました。

来年度の全国大会は近畿地区が担当し、本校はサッカーとハンドボールの2競技を主管する予定です。多くの学生達が全国大会に勝ち進んでくれることを期待しています。

高専体育大会結果							
競技	種目	近畿地区大会結果	全国大会結果	競技	種目	近畿地区大会結果	全国大会結果
陸上競技	男子1500m	3位	予選敗退	柔道	男子個人90kg級	2位	1回戦敗退
	男子110mH	3位	予選敗退	剣道	男子個人	3位	1回戦敗退
	男子やり投	17位	予選敗退	サッカー		1回戦敗退	—
	女子800m	1位	予選敗退	ハンドボール		3位	—
		2位	予選敗退	硬式野球		1回戦敗退	—
	女子3000m	—	14位				
バレーボール	男子	2位	—	バドミントン	男子シングルス	2位	1回戦敗退
	女子	2位	—		女子団体	1位	1回戦敗退
バスケットボール	男子	1位	予選敗退		女子シングルス	1位	1回戦敗退
	女子	1位	3位			2位	1回戦敗退
ソフトテニス	男子団体	3位	—	水泳	女子ダブルス	1位	1回戦敗退
	女子ダブルス	予選敗退	—		女子100m平泳ぎ	2位	6位
卓球	女子ダブルス	2位	3位決定トーナメント敗退	テニス	男子シングルス	2回戦敗退	—
					男子ダブルス	2回戦敗退	—

進路指導委員会より

100年ライフへの支援

竹岡 篤永（たけおか あつえ）

『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』（2016）を読まれましたか？平均寿命が延びた100年ライフの時代にはそれに合った人生設計が必要、という趣旨の本です。現在主流の生き方モデル〔60～65歳で退職、年金で余生を過ごす〕のような生き方はできない、ということも具体的に示されています。この本で特に興味深かったのは、3ステージ型の仕事人生〔教育→仕事→引退〕ではなく、マルチステージ型の人生をイメージさせてくれる点です。100年ライフの人生では〔教育→仕事→移行〕のサイクルが人生100年のうちに、何度も繰り返されるというのです。

こう考えたとき、明石高専での教育はどう位置づけられるでしょうか。高度な専門知識や技術を身に付けるだけ、では不十分かもしれません。専門知識を身に付ける中で、その身に付け方も意識し、将来の移行（専門分野の変更も含む）に備えることが重要になってくることでしょう。人生のうちで仕事をする期間が、60年も70年もあるとしたら、学び直しは必須だろうと思います。また、授業からだけでなく、課外活動や日常のさまざまなできごとから、つまり、日常のあらゆる場面から、主体的に学ぶ力も必要になってくるでしょう。それに答えるべく、明石高専では1年生の段階から学び方を学ぶ授業を実施し、2年生以降も引き続きCo*workなどを通じて、取り組みを継続しています。

さて高学年になり、進路相談に来る人の中には、進学か就職か、どこに就職するのか、深く迷う人もいます。その時々で真剣に迷い、選択するのは大切なことです。人生が100年あり、マルチステージの人生が普通になることを考えると、この迷いはきっとまた、どこかで繰り返されることでしょうから。高専時代の真剣な迷いは将来の糧になるに違いありません。

これから先、どんな社会になっていくのかは誰にもわかりません。専門家ですら全く異なる将来予測をしています。ですから、今想定している安泰や安楽などに囚われ過ぎず、チャレンジを続けていくことが重要です。進路指導委員会ではそのための支援に日々取り組んでいます。

3年合宿研修報告

3M研修旅行報告～トイレレビュー付き～

機械工学科 3年 赤塚 星郎（あかつか ほしろう）

午前8時半、寮生の僕にとっては早朝と言える時間にバスに乗り込み、一路名古屋へと向かう。

道中の鈴鹿PA。それにしても最近のPAというのは進歩が目覚しく、トイレなんかも昔と比べて格段に綺麗になった。手洗い場にはdyson製の高そうな蛇口(なんと乾燥機能まで付属している)がずらっと並び、なんとも壮観である。

初日に行ったのはトヨタ博物館。古くは馬車から最新のスポーツカーまで。古今東西の車という車が並んでいる。ここのトイレも綺麗だった。特に入り口はトヨタの名前に恥じぬ、シンプルで現代的な装飾が施されていた。そしてアテンダントさんの綺麗なこと。大正モダンを思わせるシックなデザインの制服が美しかった。二日目のナガシマスパーランドでは、嬉々として乗り物を楽しむ友人、正反対に節分の日の赤子のように嫌がる友人。とても愉快的な時間だった。トイレはテーマパークのトイレと言った感じで、特筆すべき点はない。

はじまりと成果

電気情報工学科 3年 永田 大和（ながた やまと）

僕の知る限り、「家に帰るまでが遠足」というひとは、どうやら全国区ようです。この言葉が日本全国に広がるということはそれなりの正当性が見出されたことにほかなりませんが、遠足ではなく研修旅行である我々のそれにも当てはまるでしょうか。結果としては恐らくそうですが(尤も、僕が学内に併設された学寮の寮生であり、この研修旅行が学校解散であるということを踏まえれば、日程表に書かれた“明石高専に到着”が遠足の終わりです)、では、「研修旅行の始まり」はどこでしょうか。

この研修旅行は、学生が“何を学ぶか”を自ら決定するという性格のために、旅行の流れをクラス内で決める必要があります。これが決定的に“遠足”と異なる部分であり、また、我々が“お菓子は各自300円まで”という非常にきびしい制約を逃れることのできる最大の理由です。

このように、遠足がその自主性・与えられた旅程内での責任の為に“遠足は家に帰るまで”という言葉を生み、研修旅行が“自らのことを自らで決める”行事であるならば、“研修旅行は行き先を話し合うときから始まっている”のではないのでしょうか。

シャープミュージアム・トヨタ産業記念館で最先端技術・日本のものづくり産業の一端を学び、宿泊先(長良川温泉ホテルパークさん)で友人と思い思いの時間を過ごし、喉に重くぶら下がる前日の疲れと不眠に「もう少し耐えてくれ」と土下座しながらナガシマスパーランドで目一杯遊ぶ。こうした充実の2日間をクラスで設計・実行するというのは、何事にも代えがたい青春の1ページとして、遠い未来に人生を振り返った時必ず輝いているはずです。もちろん、教室で行き先の案を出し合ったあのHRからキラキラと。

都市システム工学科3年研修旅行

都市システム工学科 3年 北越 友都（きたごし ゆうと）

私たちの研修旅行は、まず京都府宇治市にある天ヶ瀬ダムへ見学に行きました。見学内容はダムの一部となる施工中のトンネルが主でした。教科書や講義などで見るだけでは分からない、現場だからこそ感じることでできるスケールの大きさを感じ、現場での仕事に関心を持ち始めた人やさらに関心が深まった人がいたようです。その後昼食をとり、伊勢神宮へ参拝しました。参拝を終えると1日目はホテルに入り明日に備えて疲れを癒しました。2日目には志摩スペイン村で様々なアトラクションや異国の文化に触れることで楽しむことが出来ました。今回の旅行では、自由行動が多く、学生の身としてはそれぞれしたいことが出来て楽しかったです。この貴重な経験を今後の学校生活に活かせば良いと思います。



3年合宿研修報告

建築学科3年 研修旅行

建築学科 3年 松田 果林（まつだ かりん）

紀伊半島を巡る研修旅行はとても特別なものでした。2日連続の7:30集合でしたが、皆眠さより旅先への期待のほうが勝っているよう。

明石から一気にバスで伊勢まで行き、大きな鳥居に迎えられました。地図も手にせず、各々自由に伊勢神宮を参拝。さらさらの木材で作られた神社はとても壮大で、今でも豊かな自然に囲まれたあの幸せな気持ちを思い出します。

そして伊勢から南紀へ。旅館へ向かう船でもテンションは上がったままでしたが旅館内に広がる硫黄の臭いでむせそうになりました。一晩一緒に過ごすことで友達の意外な一面も発見。

2日目。朝早くから訪れた那智の滝は懐かしい感じがして、時間がすぐに過ぎてしまいました。アドベンチャーワールドでも動物と触れ合っているところやパーク内の楽しそうな写真がたくさん撮れ、いい思い出が作られました。

自由で自分をしっかり持っている3Aが、卒業するまでこのままであってほしいと思いました。



5年見学旅行報告

5年生見学旅行

機械工学科 5年 新田 翔也（にった しょうや）

僕たち5Mは、4泊5日の研修旅行で北海道・東北方面へ行きました。旅行の1日目と2日目は、北海道を巡りました。ノーザンホースパークという馬がたくさんいる牧場や苫小牧にあるトヨタの工場、有珠山、五稜郭タワーなどを見学しました。中でも有珠山にあるクマ牧場が1番印象に残っており、クマが偽物かと間違えるほど面白い動きをしていて楽しかったです。3日目は朝、函館の朝市で海鮮丼を堪能し北海道新幹線に乗り青森へ行きました。青森では六ヶ所原燃PRセンターと三沢航空科学博物館を見学し機械化ならではの視点から多くを学べたと思います。

また、3日目のバスガイドさんがまさかの同い年でとても驚きました。高専の見学旅行だから起こった稀な出来事で長時間のバス移動も楽しかったです。4日目の午前小岩井農場へ行きソフトクリームを食べたり、トランポリンのアクティビティをしたりして楽しみました。そして午後は中尊寺金色堂で仏像を眺め、夜は仙台市に移動しました。その日はハロウィンだったので街はとても賑わっており市内を歩くだけでも楽しかったです。5日目は市内を自由散策して夕方帰ってきました。5年間共に過ごした仲間たちとの旅行は一生忘れない思い出になりました。



5E見学旅行～台湾周遊～

電気情報工学科

5年 池本 龍生（いけもと りゅうき）

私たち電気情報工学科5年は10月28日から11月1日の5日間、台湾に行きました。5日間で高雄、台中、台北の観光をしに行きました。高雄では、パワースポットの蓮池潭に訪れました。正しい手順で通ると福が来ると言い伝えられている龍虎塔は圧巻でした。また、台中の九族文化村では、台湾の原住民族の文化を味わいつつ、クラスメートと屋内外にあるアトラクションも楽しむことができました。4日目には、台北市内の自由行動を1日中堪能できました。

5年間一緒に過ごしてきたクラスメートと、5日間の見学旅行をしてとても楽しかったと同時に、楽しい時間がすぐに終わってしまったと寂しいところもありました。卒業までの学生生活も残りわずかですが、するべきことはしっかりと、楽しく過ごしたいと思っています。



5年見学旅行報告

研修旅行in台湾

都市システム工学科 5年 遠藤 美衣（えんどう みい）

私たち5Cは10月下旬、研修旅行として台湾に行ってきました。研修としては、景観や防災、環境に考慮した改新的なインフラを見学できるエコパークや地下鉄の工事現場に行きました。観光としては、素晴らしい彫刻で造られたお寺や楽しい屋台でにぎわう夜市、千と千尋の神隠しのモデル地として有名な九份、台湾の歴史が学べる台湾総督府、カッコいい衛兵がいる忠烈祠、色々な神様が集まる龍山寺に行きました。私は海外が初めてで少し不安もあったのですが、台湾の人たちは優しい人や日本語を話せる人が多く、街並みも日本のチェーン店などがたくさんあり、ホッと楽しく過ごすことができました。食事では大人数で回転テーブルを囲んで中華料理を楽しんだり、夜は友達とたくさんお喋りをしたりし、普段あまり話す機会がない友達とも、普段から仲が良い友達とも距離がぐっと近づきました。残りのみんなとの時間も楽しく過ごしたいです。



5年研修旅行

建築学科 5年 亀川 新玄（かめがわ しんげん）

私たち建築学科はタイに行きました。タイの建築物をミニチュアサイズで再現しているムアンボランを自転車を使って観光しました。終日自由行動の日には、パタヤにあるサンクチュアリオブトゥールスを見に行きました。この建物はタイのサグラダファミリアと言われている建物で木造建築とは思えないほどの大きさに驚きました。緻密さと壮大さを兼ね備え、その存在感に感動すら覚えました。また、建築について学ぶだけでなくチュラポーン王女サイエンスハイスクールを訪問し、現地の学生と交流しました。夜にはマーケットに行き現地の雰囲気を感じつつ、商品を値引き交渉して購入するという珍しい経験をすることができました。5年間で共にした友達とはじめてのタイ料理を食べて感想を言い合ったり、タイの建築を見て圧倒されたり、夜みんなで賑やかに話をしたり、とても楽しく充実した5日間でした。



高専女子フォーラム報告

高専女子フォーラムin関西2019

都市システム工学科 4年 眞鍋 あゆみ（まなべ あゆみ）

「高専女子フォーラム」は、皆さんにはあまり馴染みがないかもしれませんが、私にとっては自分を大きく変えるきっかけとなった大切なものです。高専女子フォーラムでは、高専女子学生による研究や課外活動の発表、企業の方々から会社の「制度」の発表が行われています。私は、自分を振り返る機会となると同時に、将来の自分のために情報を得られる場であると感じています。

私は3度目の参加となりますが、今年は奈良・舞鶴高専の学生と3名で発表を行いました。他高専の学生との合同発表は、初めてで、準備段階から発見の連続でした。3人それぞれ、手法も得意なことも違うので、準備の中では意見が食い違うこともありました。ですが、いいものを作り、多くの人に自分たちの得たことを伝えたいという共通の気持ちから、最後まで成し遂げることができました。企業の方々に良い経験だ、この活動を楽しく真剣にしているのが伝わると言ってくれたのは嬉しく、心に残る一言でした。

環境の違う人たちと、何かをする難しさと楽しさを改めて実感することができたフォーラムでした。



各種大会コンテスト報告

高専ロボコン2019 理論値のその先へ

機械工学科 4年 伊藤 光 (いとう あきら)

昨年度は全国大会に出場したものの悔しい結果に終わってしまったので、今年こそは絶対に全国優勝すると心に決めて製作に取り掛かりました。そして、理論上最高得点を安定してとれる完成度の高いロボットを目指しました。

地区大会は台風に見舞われ、前日にテストランが出来ない等のトラブルもありましたが運よく予選を勝ち抜き、アイデア賞と審査員推薦を頂きました。地区大会では決して高い完成度とは言えなかったのが全国大会に向けて改良と練習を積み重ねていました。全国大会では最速理論値を達成しましたが、同点となり審査員判定で惜しくも敗退しました。正直もっと良い結果を残せるポテンシャルはあったと思うだけに非常に悔しかったです。しかし、対戦相手は理論値だけでなく判定まで考慮してロボット製作をしていたと知り実力不足だと感じました。それでもここまで高い完成度のロボットを作れたのは誇りですし、楽しめたので満足です。

応援してくださった皆様ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



デザコン2019 in東京

建築学科 4年 高見 優菜 (たかみ ゆうな)

私は2019年12月7日～8日にかけて東京で行われた、第16回全国高等専門学校デザインコンペティション2019の創造部門に出場しました。今年度のテーマは、彼を知り己を知るー〈未来につながる持続可能な地元創生〉-でした。私たちのチームはこのテーマにおいて、“日常体験を観光化する”という新しい観光のあり方を提案し、総合資格賞(企業賞)を受賞しました。私にとって憧れの大会でしたが、大会までの日々は想像以上にハードでした。しかし、チームメンバーやクラスメート、工藤先生、水島先生など、たくさんの方の支えと協力のもとで無事に大会を終えることができました。また、提案のプロセスからチームでの取り組み方など、デザコンを通して多くのことを学び、経験をしました。最後にこの場をお借りして、応援してくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。



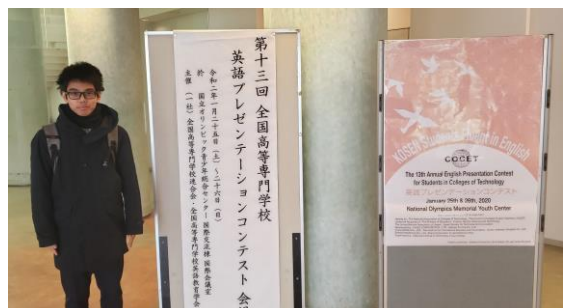
The 13th Annual English Presentation Contest for Students in College of Technology

建築学科 2年 山口 悠利 (やまぐち ゆうり)

There is something I have done nearly every day since returning to school last fall, and that is practicing for the English Presentation Contest. Because of that, I was able to win the English Presentation Contest in the Kinki district while Akashi Kosen was busy with the Kosen-festival. And then in January, I participated in the national competition. However, I was not able to win a prize. I knew the level of the competition from two years ago, but this time, it was far beyond my imagination.

Every time I take part in this competition, I meet people who are important to my life. Two years ago, I met three seniors, who taught me how to make slides and basic presentation skills. And this year, I met three students from Australia. They taught me further presentation skills in English and how I should move on the stage. I really appreciate their help. Now I'm looking forward to seeing people next year too.

Finally, I would like to thank everyone who supported and cooperated with me.



各種大会コンテスト報告

女子バスケットボール部全国3位、万々歳！！

電気情報工学科 4年 下村 瑠璃（しもむら るり）

全国高専体育大会準決勝、私たちは負けた。

1年間、全国大会優勝を目指してたくさん練習をしてきた。辛い練習も頑張って乗り越えた。それでも1位にはなれなかった。

銅メダルを貰った時「金がよかった」とチームメイトが泣きながら言った。「せやな（笑）」私も涙が出た。でも、これで充分と思った。全国大会毎年1回戦負けのチームが、この1年で全国3位まで昇り詰めたのだ。充分すぎるくらい、頑張ったよ。

コーチや顧問の先生方の協力があったから、家族の応援があったから、先輩方が築いてきた道があったから、そして何よりみんなの努力があったから、だからここまで来れた。

みんなで掴んだ銅メダル。確かに金には劣るかもしれない。でも、私にはとても輝いて見えた。



ルービックキューブ世界大会2019スクエア1部門準優勝

機械工学科 3年 高岡 誠（たかおか まこと）

2019年7月11日～14日にオーストラリアのメルボルンで開催されたWCA World Championship 2019に出場しました。ルービックキューブなどの立体パズルを揃える速さを競う大会で、世界大会は2年に一回開催されます。僕が入賞したスクエア1は崩すと変形する立体パズルで、競技者は世界に一万人以上います。スクエア1部門の予選と準決勝は1位で通過でき、特に準決勝では自己

ベストを更新できて好調でした。決勝ではプレッシャーと緊張で思うように試技ができず、準優勝という結果に終わってしまいました。世界で戦っていくには速解きの技術だけでなく、集中力や精神力も鍛える必要があることを痛感しました。表彰式のときは優勝を逃した悔しさと入賞できた嬉しさが入り混じって複雑な気持ちでした。空いた時間でメルボルン観光や、海外の選手との交流もしましたが、非常に良い経験になりました。再来年の世界大会も出場しようと思います。



第10回高校生建築アイデアコンテスト

建築学科 2年 大谷 ちとせ（おおたに ちとせ）

2019年9月に行われた第10回国土館大学理工学部理工学科建築学系主催高校生建築アイデアコンテストに参加しました。今年のテーマは『百年住宅』で、100年使える住宅とは何かを提案するというものでした。私は、「100年前にあれば100年後にもある」というコンセプトで、鴨居と敷居と壁を取り換えることで、変化する家族構成に対応する住宅を提案し、準優勝を頂くことができました。私のクラスでは夏休みを利用して海外研修に行く学生が多く、このまま夏休みに何もしなければ取り残されると思いこのコンペに挑戦しました。今まで課題でもコンペに応募してきましたが計画性が足りず納得のいく作品を作ることができませんでした。しかし今回のコンペでは東野先生や先輩にご指導していただき自分でも納得のいく作品を応募することができました。結果的に準優勝を頂くことができましたが、自分の中では最も納得がいき最後まで終わらせることができたことがとても嬉しかったです。授賞式では入賞した作品以外にも優秀作品を見せていただきました。その中でもやはり優勝された方の作品はとびぬけていて自分ももっと頑張らないと、と思いました。今回の経験を活かし、来年は建築甲子園に、再来年はデザインコンテストにも挑戦したいと思います。最後にこの場をお借りして、ご指導してくださった先生方、応援してくださった多くの方々に深く感謝を申し上げます。

国際交流活動報告

皆さんの力と言語運用能力

タイ王国プリンセスチュラホーンサイエンスハイスクール事業担当

久保田 育美（くぼた いくみ）

日本語初級レベルで今年度入学したタイからの学生、今ではすっかり皆さんの一員になっているかと思います。最初は「～です・ます」で終わる丁寧体の文しか使えなかった学生たちも、今ではむしろ普通体や口語的表現に慣れ、教員と話している時につい口を衝いて出てしまった言い方を直す姿をよく見るようになりました。

日本語初級レベルの学習者は大量の語彙や表現を吸収するわけですが、彼らの日本語運用能力を伸ばし、吸収した日本語を彼ら自身のものにさせている要因の一つは、彼らをとりまく人たちです。本校にいるタイの学生が今のように（なんとか）皆さんと同じように高専生活を送れているのも、まわりの学生の皆さんが日本語を使って接してくれることで、タイの学生も「日本語が使える」という実感を持ち、その実感をもって「〇〇さんともっと日本語で話したい」「日本語で△△の授業のレポートが書けるようになりたい」という日本語使用へのモチベーションを日々高めているからです。

今後本校には、タイの学生をはじめ、日本語を母語としない学生がさらに増えると思います。言語が異なる友だちと話すことには楽しい面がある一方で、忍耐力が必要な面もあると思いますが、自分たちの共通語を見つけ、あきらめずに楽しくコミュニケーションをとる姿勢を持ち続けていただければと思います。

フィリピン高校留学

都市システム工学科 3年 南澤 幹人（みなみざわ みきと）

今回のフィリピン高校留学では、De La Salle大学付属高校の学生と歴史の話をしたことが特に思い出に残っている。簡単にだがフィリピンの歴史を調べておいたおかげである程度は話すことができた。しかし、「ここは日本に攻められた」と言われた時、どう返答すればいいかわからず、言葉に詰まった。もっとフィリピンの歴史を調べておけばより彼らと深い話をできただろうと反省している。しかし、彼らとお互いの歴史を共有したことは、とても良い経験となった。これから活かしたいと思う。

あつと言う間の2週間だった。

日本では体験できないことや数えきれないほどの楽しい思い出。心の底から勇気を出して行って良かったと思えた。実際に行かないとわからないことだらけだということを他の人に伝えたい。これからも私はチャレンジし続けていこうと思う。



香港研修を振り返って

建築学科 2年 岩崎 真由子（いわさき まゆこ）

私は夏休みの2週間、香港IVE青衣キャンパスで建築科の授業に参加しました。見学に行った土瓜湾(To Kwa Wan)で見られる、階段下店舗の文化をどう保存すべきかについて、現地の学生とグループでディスカッションをしました。英語で自分の意見を伝えるのは難しかったですが、ジェスチャーを使ったりして積極的に意見を出せたと思います。ディスカッションで意見を交換していく中で、香港の建築の文化や特徴を学び、日本との違いを知ることが出来ました。

この2週間で私は、たくさんの方と交流をしました。ディスカッションで同じグループになった学生とは、一緒にスポーツをして楽しみ、私たちのために開いてくださったパーティーでは、香港の伝統的な料理を食べながら会話をして盛り上がりました。また、滞在先である寮で出会った学生には、ご飯に連れて行ってもらったり、一緒に料理をしてお好み焼きを作ってもらったりしました。初めての海外研修で不安もありましたが、香港で出会った方たちのおかげで、とても思い出深く貴重な経験ができました。



図書館より



2019年度学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

誌 名	請求記号	登録番号
機械工学科推薦		
システム安全入門	509.8.N	109324
エンジニアリングデザイン 工学設計の体系的アプローチ	501.8.P	109323
機械工学のための数学	501.1.N	109361
新・機械技術史	502.0.N	109360
わかる！使える！熱処理入門	566.3.T	109327
日経テクノロジー展望2019世界をつなぐ100の技術	504.0.N	109328
「日経ものづくり」	雑誌	
電気情報工学科推薦		
パワーエレクトロニクス機器のEMC	549.8.P	109342
情報セキュリティと情報倫理	007.6.Y	109362
暗号技術のすべて	007.1.I	109330
Ruby on Rails 5アプリケーションプログラミング	547.48.Y	109333
「OHM総合電気雑誌」	雑誌	
「トランジスタ技術」	雑誌	
都市システム工学科推薦		
インフラメンテナンス 日本列島365日、道路はこうして守られている	450.2.Y	109290
CIM入門 ―建設生産システムの変革―	513.1.Y	109284
設計技術者が知っておくべき 有限要素法の基本スキル	501.34.A	109285
ドキュメント豪雨災害 西日本豪雨の被災地を訪ねて	369.33.T	109288
e c o検定公式テキスト - 環境社会検定試験 (改訂7版)	519.07.T	109289
環境測定Ⅱ 水質	JISハントブック	109359
建築学科推薦		
歩いて読みとく地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方	601.1.Y	109305
ポスト2020の都市づくり	330.8.I	109299
保育園・幼稚園・こども園の設計手法	526.36.N	109317
幸せな名建築たち	523.1.N	109320
台所見聞録 人と暮らしの万華鏡 (LIXIL BOOKLET)	596.0.M	109315
知的戦闘力を高める 独学の技法	379.7.Y	109310
一般科目推薦		
真珠湾を語る―歴史・記憶・教育	210.75.Y	109261
クリエイティブ・ラーニング:創造社会の学びと教育	370.4.I	109263
日本の異国: 在日外国人の知られざる日常	334.41.M	109268
量子と情報 ―量子の実在と不確定性原理	007.1.0	109276
「大学への数学」	雑誌	
「CNN English Express」	雑誌	
全114冊、雑誌7種		

図書館より

利用ランキング 平成30年10月1日～令和元年9月30日

－図書－

- ① 60回 「リスニング編；公式TOEIC listening & reading
トレーニング」
- ② 55回 「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編」
- ③ 47回 「vol. 6；TOEICテスト新公式問題集」
- ④ 40回 「Marcel and the white star」
- ④ 40回 「pbk；The big test」
- ⑥ 39回 「pbk；Sarah’s surprise」
- ⑦ 36回 「pbk；Get the ball」
- ⑧ 35回 「Marcel and the Mona Lisa」
- ⑨ 34回 「pbk；Who’s best?」
- ⑩ 31回 「pbk；The old promise」

－雑誌－

- ① 98回 「新建築」
- ② 60回 「新建築, 住宅特集」
- ③ 29回 「建築知識」
- ④ 27回 「ニュートン」
- ⑤ 13回 「A＋U」
- ⑥ 8回 「Kansai Walker」
- ⑦ 6回 「ディテール」
- ⑧ 5回 「TOEIC Test プラス・マガジン」
- ⑧ 5回 「住宅建築」
- ⑩ 3回 「English express」
- ⑩ 3回 「建築技術」

－DVD－

- ① 4回 「ワイルド・スピード ICE BREAK」
- ① 4回 「2001～2006（リターンズ）；M-1グランプリ the BEST」
- ① 4回 「映画 けいおん / かきふらい」
- ④ 3回 「ハンガー・ゲーム：生存確率1/24」
- ④ 3回 「トランスフォーマー：ロストエイジ」
- ④ 3回 「ペイ・フォワード：PAY FOWARD」
- ④ 3回 「2012「スタンダード版」」

図書館利用状況（平成26年度～平成30年度）

項目 / 年度			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
年間	入館者数	時間内	21,478	17,637	20,940	19,611	20,342
		時間外	7,614	6,259	5,531	5,303	5,113
		計	29,092	23,879	26,471	24,964	25,455
	AVルーム	計	255	118	95	145	93
	貸出者数	計	3,296	3,079	2,499	2,723	3,731
		計	6,497	6,295	4,968	5,710	8,802
	学外者貸出冊数	計	147(56)	300(78)	235(75)	176(67)	299(102)
	開館日数	年間	255	291	289	281	281
一日平均	入館者数(時間内)		84	61	72	81	85
	入館者数(時間外)		36	26	19	23	22
	A V コ ー ナ ー		1	0.4	0.3	0.5	0.3
	貸 出 者 数		13	11	9	10	14
	貸 出 冊 数		25	22	17	20	32

ブックハンティング 参加者感想文

明石高専では今年度も7月6日（土）にブックハンティングを実施しました。
参加した学生の感想を掲載します。

明石高専では毎年ブックハンティングというイベントが開催されます。図書館へ新たに蔵書する本を三宮のジュンク堂で学生が選ぶもので、私は今回で三回目の参加となりました。

私が考えるブックハンティングの一番の魅力は、普段から気になっているが、購入するとなると少し腰が引ける専門書などが財布事情を気にせず購入できる点です。どうしても偏りがちな自らの購入基準を逸脱して思い切って本を選べるので、本来なら出会うはずのなかった本と出会えます。

本との出会いは一期一会。皆さんもブックハンティングで自分だけの至高の一冊を探してみてはいかがでしょうか。

（都市システム工学科4年 松本 朝陽）

校内短信・行事予定・学生表彰

●校内短信

月/日(曜日)	行事
9月24日(火)	専攻科入学試験(学力選抜)
10月1日(火)	後期授業開始 全校集会
10月13日(日)	近畿地区高専ロボットコンテスト 於:大和郡山市総合公園金魚スクエア 2チーム出場 Aチーム:アイデア賞 Bチーム:特別賞
10月28日(月)~ 11月1日(金)	5年見学旅行 機械:北海道・仙台 電気:台湾 都市:台湾 建築(10/28~11/2):タイ
10月31日(木)	2年バス旅行 機械:大阪 電気:大阪 都市:岡山 建築:京都
10月30日(水)~ 31日(木)	3年合宿研修 機械:東海地方 電気:東海地方 都市:京都・三重 建築:三重・和歌山
11月9日(土) ~10日(日)	高専祭 高専祭代休:11日(月)~12日(火)
11月9日(土) ~10日(日)	近畿地区高専英語プレゼンテーションコンテスト 於:神戸研究学園都市大学利用施設 UNITY シングル部門 2名出場:内1名1位
11月15日(金)	教養行事(ミュージカル)
11月18日(月)~ 20日(水)	寮生球技大会
11月24日(日)	全国高専ロボットコンテスト 於:東京両国国技館 1チーム(Aチーム)出場:特別賞
12月2日(月) ~6日(金)	後期中間試験
12月7日(土) ~8日(日)	全国高専デザインコンペティション 於:大田区産業プラザPiO 空間デザイン部門1チーム出場 構造デザイン部門2チーム出場 創造デザイン部門2チーム出場:内1チーム総合資格賞 AMデザイン部門1チーム出場
12月10日(火)~ 11日(水)	スポーツ大会 (12/10 全校避難訓練)
12月18日(水)	学寮クリスマス会
12月24日(火)	全校清掃日
12月25日(水)~ 1月5日(日)	冬季休業
1月15日(水)	学寮予餞会
1月18日(土)	入学試験(推薦選抜)
1月25日(土) ~26日(日)	全国高専英語プレゼンテーションコンテスト 於:国立オリンピック記念青少年総合センター シングル部門1名出場
2月13日(木) ~14日(金)	後期期末試験・専攻科後期試験
2月18日(火) ~21日(金)	
2月16日(日)	入学試験(学力選抜)
2月17日(月)	臨時休業
2月21日(金)	終業式
2月25日(火) ~27日(木)	学力補充期間

編集後記

今年度は「令和最初の」とつく大会・行事が数多く開催されました。新たな時代の良きスタートになっていれば幸いです。

A・I

●行事予定

月/日(曜日)	行事
3月20日(金)	第54回卒業式・第23回修了式
3月20日(金)~31日(火)	学年末休業
4月3日(金)	第59回入学式 開寮・入寮式
4月6日(月)	始業式 専攻科生オリエンテーション
4月7日(火)	前期授業開始
4月9日(木)	身体計測・内科検診
4月9日(木)	新入寮生歓迎会
4月15日(水)	学寮防災訓練
4月23日(木)~24日(金)	1年生合宿研修 於:滋賀県
4月25日(土)	寮生保護者懇談会、後援会役員会・総会
5月13日(水)	寮祭
5月	TOEIC IPテスト
6月(予定)	トライやる・ウィーク
6月2日(火)	専攻科入学試験(推薦選抜)
6月2日(火)~8日(月)	前期中間試験
6月15日(月)~17日(水)	寮生体育祭
6月26日(金)	全校清掃日
6月27日(土)	文化発表会(発表の部)
6月27日(土)~ 7月5日(日)	保護者懇談会 授業の公開(6/29~7/3)
6月~7月	近畿地区高専体育大会
7月15日(水)	TOEIC IPテスト(5年生のみ)
7月31日(金)~ 8月6日(木)	前期期末試験・専攻科前期試験
8月6日(木)	全校集会
8月7日(金)~12日(水)	学力補充期間
8月8日(土)~9日(日)	オープンキャンパス
8月13日(木)~ 9月30日(水)	夏季休業
8月~9月	全国高専体育大会 於:近畿地区

●学生表彰

●学術奨励賞

言語理解とコミュニケーション研究会 学生研究賞
機械・電子システム工学専攻1年 山下 紗苗

●課外活動優秀賞

第43回スポーツチャンバラ世界選手権大会 レディース 小太刀・楯小太刀
初段以上の部 3位
第44回スポーツチャンバラ世界選手権大会 レディース 長巻・長槍の部
3位
都市システム工学科5年 山野 夏海
JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018 高校生の部
国際協力特別賞
機械工学科2年 神馬 綾乃
KOSENセキュリティコンテスト2019 準優勝
電気情報工学科3年 井上 勢大
電気情報工学科3年 岡田 颯太
電気情報工学科3年 三浦 有央
電気情報工学科2年 東 志拓

●特別賞

WCA World Championship 2019 スクエア1 2位
機械工学科3年 高岡 誠

●寮生会功労賞

都市システム工学科5年 櫻井 捷瑛